

1 意見シートの内容（実態調査及び計画について）

	質問・ご意見	回答
1	結果を分析するチームは必要かと思います。（それをやるのは調査実施した部内になると思いますが）その分析結果を計画策定の際活用し、活用したことを計画に記載するなど見える化ができると良いのではないのでしょうか。部会委員のできることは調査結果を読んだ上で、計画策定にとりくむ、自分の意見に調査結果をもりこむということかと思います（それはすでにやっています）。それ以上のことを求められるのであれば、委員のやるべきことをご指示いただきたいですし、自身の本体業務の合間を縫ってやるには負担が大きいい、もしくはやり切れる自信がない。責任を持てなければ、委員を辞退することも考えるかもしれません。	（１）令和４年度に実施した実態調査の結果について、委員の皆様にご各々の専門分野や日頃から関係する部分などを中心に見ていただき、それを踏まえ今年度の協議会でのグループワークや意見シートなどで、評価やご意見を出していただき、計画案に反映していきたいと考えています。 グループワークにあたっては、実態調査結果の報告、サービスの利用実績、計画の進捗状況などの資料を活用しながら議論していただき、計画の案に反映させているところです。計画の中で調査結果やご意見がどのように、どの部分に反映されたかがわかるよう記載したいと考えています。 （２）協議会での検討時間が十分でないことは事務局としても認識しております。ワーキンググループ等の作成についてのご意見もいただいておりますが、現在の協議会の中では様々な障がい当事者や支援者の方のご意見をいただけるということや、委員の方のご負担なども踏まえ、今期のような形で進めているところです。
2	議論すべき点が多いので、正直時間が足りなく、自分がどのように、どのくらい貢献できているのか悩みます。時間があるのならもっと丁寧に議論したいです。時間がなければ自分の専門分野に集中して議論した方が貢献できるように思います。委員は何をどこまで求められているのかわからず、モヤモヤしています。	（２）協議会での検討時間が十分でないことは事務局としても認識しております。ワーキンググループ等の作成についてのご意見もいただいておりますが、現在の協議会の中では様々な障がい当事者や支援者の方のご意見をいただけるということや、委員の方のご負担なども踏まえ、今期のような形で進めているところです。
3	実態調査の本編は膨大なボリュームなので、すべてに目を通していません。概要版も熟読する時間が取れず、ぱらぱらと通読し、業務に関係する部分（成年後見制度や、虐待等）は読み込みました。回答者のみなさまに失礼な活用方法とを感じる方もいるかもしれません。お詫びします。とはいえ、業務に関係する部分は大変参考になり、また、今後の業務で活用する場合は継続的にあります。調査自体は様々な場面で様々な人が活用し、「この調査があってよかった」と思っている人がいることを当事者委員含め回答いただいた方にお伝えします。もう一点、調査結果を協議会としてどう評価（総括）するかという課題については、下記の２つの側面があると思います。①回収率、回答のしやすさ（しにくさ）など調査の実施についての評価②調査の計画反映についての評価。 ①②ともに各委員の評価を共有し、協議会としての評価をだしてはどうでしょうか。調査の結果や回答者の声が反映されているか否かについては、三鷹市全体の計画であること鑑みると一人一人の回答を反映させることは難しいと思います。委員は様々な障がい当事者や支援者の代表という面がありますので、調査結果や、当事者性を活かし、周りの委員を動かして声を形にすることは可能ではないでしょうか？当事者委員が色々悩んでいることは感じていたのですが、同じ立場の委員として当事者委員の問いに答えたり、自分の意見を言わなかった点は申し訳ない気持ちです。	（１）令和４年度に実施した実態調査の結果について、委員の皆様にご各々の専門分野や日頃から関係する部分などを中心に見ていただき、それを踏まえ今年度の協議会でのグループワークや意見シートなどで、評価やご意見を出していただき、計画案に反映していきたいと考えています。 グループワークにあたっては、実態調査結果の報告、サービスの利用実績、計画の進捗状況などの資料を活用しながら議論していただき、計画の案に反映させているところです。計画の中で調査結果やご意見がどのように、どの部分に反映されたかがわかるよう記載したいと考えています。 （３）実態調査の対象者や調査票の内容、見やすさについては、前期の自立支援協議会の中で委員の皆様と議論し検討した結果を反映し実施いたしました。 回収率については、前回調査より下がったものの、回収数は一定確保できており、概ね妥当な数字と考えています。

4	何人かの委員の方々が仰っていましたが、私も、この報告書の結果を踏まえての丁寧な検証はする必要があるかと思います。 もちろん、きちんと反映されているところもあるかとは思いますが… 何ができて、何ができていないか、そしてそれができない理由などを、現時点での検証報告は必要かと思います。 我々相談支援専門員の研修では、地域課題を解決するために自立支援協議会の重要性について学びますが、まだまだこの協議会を活かしきれていない感じはあります。 現状の協議会の開催時間だけでは、物理的に困難なのかも思うところもあります。 例えばですが… この報告書結果の検証をするワーキンググループを作るなどはいかがでしょうか？ 特に報告書の自由記述欄には（まだ私も読みきれてはいませんが…）、皆さんのお一人お一人の思いが記入されていますので、その課題整理と、三鷹市として今できること、できないことの整理だけでもできないかと思います ご検討下さいますようよろしくお願いいたします。	（１）令和４年度に実施した実態調査の結果について、委員の皆様にご各々の専門分野や日頃から関係する部分などを中心に見ていただき、それを踏まえ今年度の協議会でのグループワークや意見シートなどで、評価やご意見を出していただき、計画案に反映していきたいと考えています。 グループワークにあたっては、実態調査結果の報告、サービスの利用実績、計画の進捗状況などの資料を活用しながら議論していただき、計画の案に反映させているところです。計画の中で調査結果やご意見がどのように、どの部分に反映されたかがわかるよう記載したいと考えています。 （２）協議会での検討時間が十分でないことは事務局としても認識しております。ワーキンググループ等の作成についてのご意見もいただいておりますが、現在の協議会の中では様々な障がい当事者や支援者の方のご意見をいただけるということや、委員の方のご負担なども踏まえ、今期のような形で進めているところです。
5	実態調査の実態、評価、検証に関してどのように行っていくか。	（１）令和４年度に実施した実態調査の結果について、委員の皆様にご各々の専門分野や日頃から関係する部分などを中心に見ていただき、それを踏まえ今年度の協議会でのグループワークや意見シートなどで、評価やご意見を出していただき、計画案に反映していきたいと考えています。 グループワークにあたっては、実態調査結果の報告、サービスの利用実績、計画の進捗状況などの資料を活用しながら議論していただき、計画の案に反映させているところです。計画の中で調査結果やご意見がどのように、どの部分に反映されたかがわかるよう記載したいと考えています。 （３）実態調査の対象者や調査票の内容、見やすさについては、前期の自立支援協議会の中で委員の皆様と議論し検討した結果を反映し実施いたしました。 回収率については、前回調査より下がったものの、回収数は一定確保できており、概ね妥当な数字と考えています。

2 意見シートの内容（ビジョンについて）

No.	質問・ご意見
1	【資料3】意見シートの内容について（ビジョン）を拝読しました。ご提案されたのは医療・教育関係の委員の方かと思います。機能回復や維持向上（療育）を主目的とすれば、当事者の持っている力を最大限活用するということは前提条件なのだろうと思います。症状や障がい支援区分が軽くなっていけば、それだけ人間的・財務的な負荷が減ることにつながるので事業者・市にとっても良い効果が期待される…といったことも含めてのご意見なのかなと感じました。的外れかもしれませんが、一方で、言葉が強いと感じたのは、主に知的障がい関係の委員の方たちではないかと思っています。私たちは、意思の推定・代行決定という、いわゆる意思決定支援を必要とする方たちと接するなかで、ご本人の「自らの決定」自体を左右する立場にあります。 日々の活動のなかでは、周りから見れば絶対こうしたほうがいい、という事柄であっても、ご本人は絶対そうしたくない、と言う場面が多々あります（私自身も、健康を害すると知っ ていながらお酒もたばこも嗜む日々です…福祉に限った話でもありませんね）し、こうなってほしいという支援者側の思いは当然あるのですが、そこに誘導・強要するようなことがないよう、ご本人がどう思っているのか？を想像することをまず大事にしよう意識して業務にあたるようにしています。といった事情により、他者が（というニュアンスを感じる）能力を「引き出す」という表現より、本人が「発揮する」という表現にしたほうがより当事者目線なのではないか、というお話であったのだらうと思います。立ち位置や視点の違いによって、望まれる表現も多様なのだと改めて感じました。等々考えた結果、今回資料の案はやはり言葉が少し強いかな、というのが私の意見です。上記は一例ですが、委員の方それぞれ専門分野・立場からさまざまな考え方やご意見を出しあい、それを集約し協議できる場があることは、誰もが対象となるビジョンを作る上でとても有益であると思います。しかし、単にどれが正解か？という話ではないうえ、意見の背景まで捉えようとする、その取りまとめには既存の会議時間・回数では不足するだろうなとも感じますし、資料作成にあたる事務局の方も苦慮されているのだらうと思います。